

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

え

男子・女子 1 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

| チーム名      | 総得点 |      | 総得点 | チーム名 |        |
|-----------|-----|------|-----|------|--------|
| 熊本市立千原台高校 | 29  | 12   | —   | 8    | 県立湯沢高校 |
|           |     | 17   | —   | 12   |        |
|           |     | —    |     |      |        |
|           |     | —    |     |      |        |
|           |     | —    |     |      |        |
|           |     | 7mTC |     |      |        |

選抜大会初日の第4試合は千原台と湯沢との対戦。湯沢のスローオフ。試合が動いたのは3分31秒、湯沢5番のシュートで先制。千原台もすかさず6番のサイドシュートで追いつく。序盤は一進一退の状況が続く。千原台は2枚目を高めに置いた変則的な5-1DFで相手のパス回しを乱す。先に動いたのは千原台。20分48秒にタイムアウトを取る。タイムアウト後、千原台が3連続得点をあげ、逆転に成功する。前半は11対8で千原台がリードで折り返す。

後半は千原台2番の速攻で先制。湯沢は体格で劣る部分を足を使ったDF、素早いパスワークで対抗する。しかし、千原台の攻撃に徐々にDFに隙間が生まれ、得点を取られる場面が増え始める。そこで12分20秒に湯沢はタイムアウトを取る。タイムアウト後、千原台に連取を許したが、湯沢は4番を中心に攻撃を展開し、食い下がる。だが、千原台は攻撃の手を緩めず得点を重ね、29対20で勝利を収めた。

湯沢4番は1人で14得点をあげる活躍をみせたが一步届かず。千原台が2回戦に駒を進めた。

29年 3月 24日

記載者氏名 妻木 啓晃

戦 評 用 紙

男 け

男子 ・ 女子 1 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

| チーム名 | 総得点 |      | 総得点 | チーム名   |
|------|-----|------|-----|--------|
| 富 岡  | 29  | [    | 22  | 神戸科学技術 |
|      |     | 13   | 10  |        |
|      |     | 16   | 12  |        |
|      |     | —    |     |        |
|      |     | —    |     |        |
|      |     | —    |     |        |
|      |     | 7mTC |     |        |

関東予選を苦しみながらも勝ち上がってきた富岡高校、40回大会記念杯で初出場を掴んだ地元兵庫の神戸科学技術高校の一戦。1分13秒、富岡は10番山田の切れのあるミドルで先制すると、続けて速攻、2番大塚のサイドシュートで加点していく。神戸科学技術は、15番原田の7mTで選抜初得点、7番中村の体を張ったポストシュート、15番原田のミドルで応戦するも、富岡の強固なDFをなかなか崩せない。富岡は10番山田、13番黒澤らの得点で着実にリードを広げていくが、前半ラスト5分で退場者相次ぐ。その間に神戸科学技術は9番西井、7番中村らで連続得点。地元会場の声援と一体となった見事な追い上げを見せ、13-10で前半を終える。後半序盤、神戸科学技術は16番平松の得点などで追い上げを見せるも、選抜17年連続出場の富岡は相手のミスからの速攻などで終始落ち着いたゲーム運び。2番山田、5番高橋らの活躍で2回戦へと駒を進めた。神戸科学技術は幾度となく見せ場を作ったが、悔しい初戦敗退となった。

29年 3月 24日

記載者氏名 山本 紘輝

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

く

男子 女子 1 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

| チーム名     | 総得点 |      | 総得点 | チーム名 |          |
|----------|-----|------|-----|------|----------|
| 聖和学園高等学校 | 25  | 12   | —   | 11   | 岐阜商業高等学校 |
|          |     | 13   | —   | 9    |          |
|          |     |      | —   |      |          |
|          |     |      | —   |      |          |
|          |     |      | —   |      |          |
|          |     | 7mTC |     |      |          |

24回の出場を誇る東北代表の聖和学園と2年ぶり5回目となる東海代表の県岐阜商業の対戦。

聖和学園のスローオフでゲームスタート。13番1年の杉本を中心に攻撃を組み立てる聖和学園に

対し、固い6-0ディフェンスから速攻を出す県岐阜商業がわずかなリードを守る形で試合が進む。

速いリズムで試合が展開するも、両チームとも得点のはびかない。21分ようやく聖和学園が8-8

の同点に追いつく。23分、県岐阜商業は退場者を出すも、25分に再びリードを奪う。残り5分

を切ったところで聖和学園が速攻から連続得点をあげ、1点リードで前半を終える。

後半開始早々、聖和学園は8番大友の連続速攻などでリードを広げにかかる。一方、県岐阜商業

は、聖和学園の高いディフェンスを攻めあぐね、なかなか得点をあげられず、じりじりと差を広げ

られていく。県岐阜商業は10分過ぎ、守りから速攻の流れを取り戻しかけるも、退場者を出すな

どなかなか追いつかず20分経過で差は5点となる。聖和学園は終盤になってもスピードが落ちず、

県岐阜商業の猛追をかわし、5点差を守って勝利を手にした。

2017年 3月 24日

記載者氏名 石井 慎也

